

ESOP関連 最新情報

1. G-1 9月16日 消費者庁「高齢者誤飲に注意喚起」
2. M-1 10月12日「包装タイムス」にESOPが掲載 『企業連携で生産体制構築』
3. M-2 10月13日「化学工業日報」にESOPが掲載 『医薬錠剤包装に新形態』
4. A-1 10月14日「PHARMACY NEWSBREAK」に日本安全服用協会が掲載
5. M-3 10月15日「脳外科学会」にてESOPでの臨床試験を発表
6. M-4 10月13～16日「JAPAN PACK 2015」でセミナー、展示
7. G-2 10月に Pmda の安全性情報にPTP包装シート誤飲が掲載
8. G-3 10月29日 朝日新聞 『子の薬誤飲 包装で防げ』
9. M-5 11月16日「包装タイムス」に掲載 『JP展での展示、講演に反響』
10. M-6 11月18日「産経新聞」にESOPが掲載 『1錠ごとに情報記載』
11. M-7 11月25日「日経新聞」に掲載 『薬の処方簡単に』
- 12.13. G-4,5 12月18日 消費者庁「厚生労働省にCR包装導入を提言」
14. G-6 12月22日 塩崎厚労相記者会見「包装容器面を含めた誤飲事故防止策を検討」
15. M-8 1月15日 高齢社会の福祉専門紙「シルバー新報」にESOPが掲載 『安全服薬協会設立』
16. M-9 1月18日 ヘルスケア総合情報週刊誌「ドラッグトピックス」にESOPが掲載 『設立記念シンポ開催』

消費者庁「注意喚起」(2015年9月16日)

高齢者の誤飲 PTP包装シートの誤飲が最多 (165件中53件)



News Release

平成 27 年 9 月 16 日

高齢者の誤飲・誤食事故に御注意ください！

消費者庁には、65歳以上の高齢者の誤飲・誤食事故の情報がこれまでに165件寄せられており、薬のPTP包装シート¹や部分入れ歯、漂白剤、乾燥剤を誤飲・誤食したという事故が多く見られます。

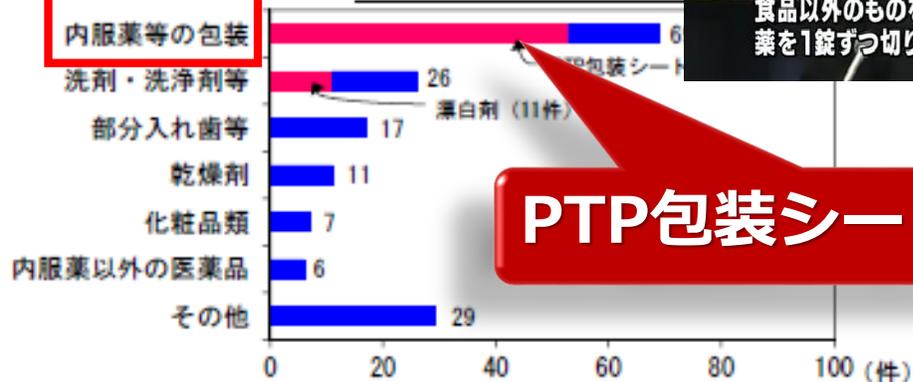
高齢者は、視覚・味覚等の身体機能や判断力の低下、認知症などにより、誤飲・誤食のリスクが高まると考えられます。事故を防ぐため、高齢者のしから以下の点に注意しましょう。

- ① 薬のPTP包装シートは1錠ずつに切り離さない。
- ② 食品や薬とそれ以外のものは分けて保管する。
- ③ 食品以外のものを食品用の容器に移し替えない。
- ④ 認知症の方の手の届く所に不要なものや危険なものを置かない。



食品以外のものを食品用の容器に移し替えたり薬を1錠ずつ切り離したりしないよう注意を呼びかける

図2 製品別件数 (n=165)



PTP包装シート(53件)

※「その他」には、防虫剤、ガソリン、ボタン電池等が含まれます。

(3) 誤飲・誤食した場合の危険性

事故が多く見られた製品について、誤飲・誤食した場合の危険性をまとめました。

1) PTP包装シート (53件)

PTP包装シートはプラスチックにアルミなどを貼り合わせたもので、薬剤包装の主流となっています。誤飲した53件のうち5件は入院を要した事例でした。

PTP包装シートを飲み込むと、喉や食道、腸などの人体内部を傷付けたり、穴を開けたりして重大な傷害を招くおそれがあります。また、痛みなどの症状が表れるまで誤飲したことに気付きにくく、体調不良などで検査しても、PTP包装シートの素材はX線を透過し、発見が遅れ重症化するおそれもあります。

「誤飲した場合の危険性」
 53件のうち5件は入院を要した事例！
 誤飲したことに気付きにくく、X線を透過してしまうため、発見が遅れ重症化するおそれあり。

10月12日「包装タイムス」にESOPが掲載



モリモト医薬
「企業連携で生産体制構築」
誤飲事故防止の錠剤包装普及へ

薬局・薬剤師のためのニュースメディア：じほう社発行

2015年（平成27年）10月14日水曜日

PHARMACY NEWSBREAK 560号



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

PHARMACY NEWSBREAK

株式会社 じほう

©じほう 2015

この通信は会員が直接利用される以外、コピー等による第三者への提供は固くお断りいたします

誤飲・誤薬防止の「インストラクター」も導入へ
日本安全服用協会 「アドバイザー」の上級資格、実技も習得

誤飲や誤薬、残薬を防ぐことを目的に今秋発足した一般社団法人日本安全服用協会（大阪市）は2018年にも、「安全服用インストラクター」の資格制度を創設する。薬剤師や看護師らを対象に今年度創設する「安全服用アドバイザー」の上級資格だ。アドバイザーの資格制度は座学が中心となるのに対し、インストラクター資格取得には実技の習得が必須となる。知識・技能の両面から指導の質向上を図る。

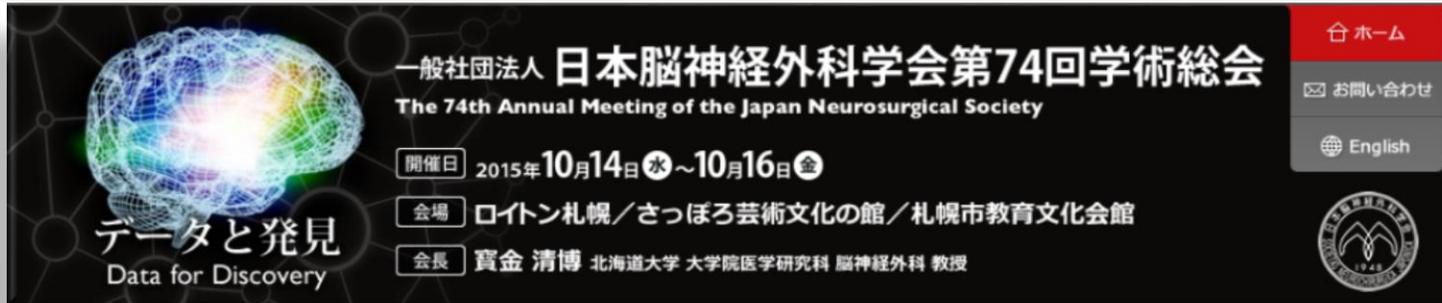
安全な薬の服用に関する知識・技能の習得を目指すアドバイザーの資格制度は、インターネットを使ったeラーニングなどの受講が中心となる。こうした知識の充足だけでは不十分なため、実技の研修を行うインストラクターの資格制度を設ける。インストラクター資格を得た人にはアドバイザーに実技面を教育することを求めるなど、次のインストラクターを育てる役割を担ってもらおう構想だ。

インストラクターの資格制度では今のところ、「薬剤師」「在宅関連」「福祉施設」「看護関連」などを候補に複数の受講科目を用意する予定で、全部で4科目以上になる可能性もある。これらのうち、全てを受講する必要があるかどうかは今後詰めるが、受講が1科目だけでは認定を認めない方向だ。

日本安全服用協会

誤飲・誤薬防止の
「インストラク
ター」も導入へ「アドバイザー」の
上級資格、実技も習
得

10月15日「脳外科学会」にESOPが臨床試験



**演者：三原千恵先生
(山田記念病院脳神経外科)**

ポスター A会場 (さっぽろ芸術文化の館 清流の間)

ポスター	10:00~10:42
2P-P046	<p>その他 1</p> <p>座長：山口 文雄 日本医科大学付属病院脳神経外科</p>
2P-P046-01	<p>脳磁計測を用いたhigh γ帯域の事象関連同期と言語活動の評価</p> <p>橋本 洋章 大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科学</p>
2P-P046-02	<p>自動瞳孔測定機を用いた頭蓋内圧上昇の早期発見の有用性</p> <p>古家一洋平 奈良県立医科大学脳神経外科</p>
2P-P046-03	<p>新しい錠剤包装ESOPack™(Easy Seal Open Package) の使用経験</p> <p>三原 千恵 山田記念病院脳神経外科</p>
2P-P046-04	<p>GLP-1アナログの神経保護効果</p> <p>福田 修志 北九州市立八幡病院脳神経外科</p>
2P-P046-05	<p>AAVベクターの新規精製法と神経細胞への遺伝子導入効果の評価</p> <p>川野 泰広 タカラバイオ株式会社 CDM センター</p>
2P-P046-06	<p>改良型フェイスウェアを用いた術後頭部圧迫法について</p> <p>鳥橋 孝一 東京警察病院脳神経外科</p>
2P-P046-07	<p>Continuous motion monitoring during the brain radiosurgery</p> <p>齊藤 研一 厚南セントヒル病院脳神経外科</p>

◆新しい錠剤包装ESOPack (Easy Seal Open Package) の使用経験

老健施設の利用者59名を対象に、PTP包装（大小）とESOPからの取り出し性比較を実施。ESOPは開封方法に不慣れで時間がかかったが、認知症や片麻痺のある対象者でもESOPの取出し時間はPTP（大）とほぼ同じであった。ESOPは、高齢者や障害を有する患者にとって、安全かつ簡便な包装形態として期待される。

15日(木)



10月13～16日「JAPAN PACK 2015」でセミナー、展示

JAPAN PACK 2015

包む世界 みつげる愉しみ

2015.10/13 (TUE) ☉ 2015.10/16 (FRI)

会場：東京ビッグサイト 東京国際展示場（東展示ホール）
主催：一般社団法人 日本包装機械工業会

東陽機械製作所さまブースにてセミナーと展示、商談会を実施



10月にPmdaの安全性情報にPTP包装シート誤飲が掲載

Pmda 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

医薬品・医療機器等
安全性情報

Pharmaceuticals
and
Medical Devices
Safety Information
No. 327

目次

1. 酵素電極法を用いた血糖測定器等の使用について	3
2. 医療事故の再発・類似事例に係る注意喚起について	5
3. 重要な副作用等に関する情報	11
1 アスナブレビル、ダクラタスビル塩酸塩	11
2 アマンタジン塩酸塩	13
3 ニボルマブ（遺伝子組換え）	14
4 ナトリウム・グルコース共輸送体2（SGLT2）阻害剤	16
4. 使用上の注意の改訂について（その268）	23
フィンゴリモド塩酸塩 他（1件）	
5. 市販直後調査製品目一覧	24

厚生労働省において収集された情報を基に、医薬品・医療機器のより安全な使用に役立てるために、医療関係者に対し情報提供される。

2

医療事故の再発・類似事例に係る注意喚起について

1. はじめに

厚生労働省及び独立行政法人医薬品医療機器総合機構（以下「PMDA」という。）は、公益財団法人日本医療機能評価機構（以下「評価機構」という。）が実施している医療事故情報収集等事業及びヒヤリ・ハット事例収集・分析事業により収集された医療事故情報、ヒヤリ・ハット事例を分析し、医薬品・医療機器に関する医療事故防止対策に係る通知の発出や「PMDA医療安全情報」の注意喚起等に努めているところです。

しかしながら、平成26年7月1日～平成26年12月31日に評価機構に報告された事例を分析した結果、既に通知又は「PMDA医療安全情報」により注意喚起等されている事例の発生が確認されました。

そのため、再発が確認された事例を紹介するとともに、特に「PTP包装シートの誤飲」「インスリン投与単位間違い」の詳細を紹介します。

2. 主な再発事例について

(1) PTP包装シートの誤飲について

○発生した事例

内服薬について、高齢患者がPTP包装シートのまま誤飲してしまった。
背景要因は、当該患者は、本来なら見守りでの服用管理が望ましい対象であったにも関わらず、繁忙を理由に管理を怠ってしまったことによる。

○発生した施設における再発防止策

服用の自己管理が困難と予想される高齢患者に対しては、服用薬の一化や、見守りによる管理を徹底するといった改善策を講じた。

○関係する通知や注意喚起

▶平成22年9月15日付医政総発0915第2号・薬食総発0915第5号・薬食安発0915第1号
「PTP包装シート誤飲防止対策について（医療機関及び薬局への注意喚起及び周知徹底依頼）」
<http://www.pmda.go.jp/files/000145758.pdf>

2：医療事故の再発・類似事例に係る注意喚起について

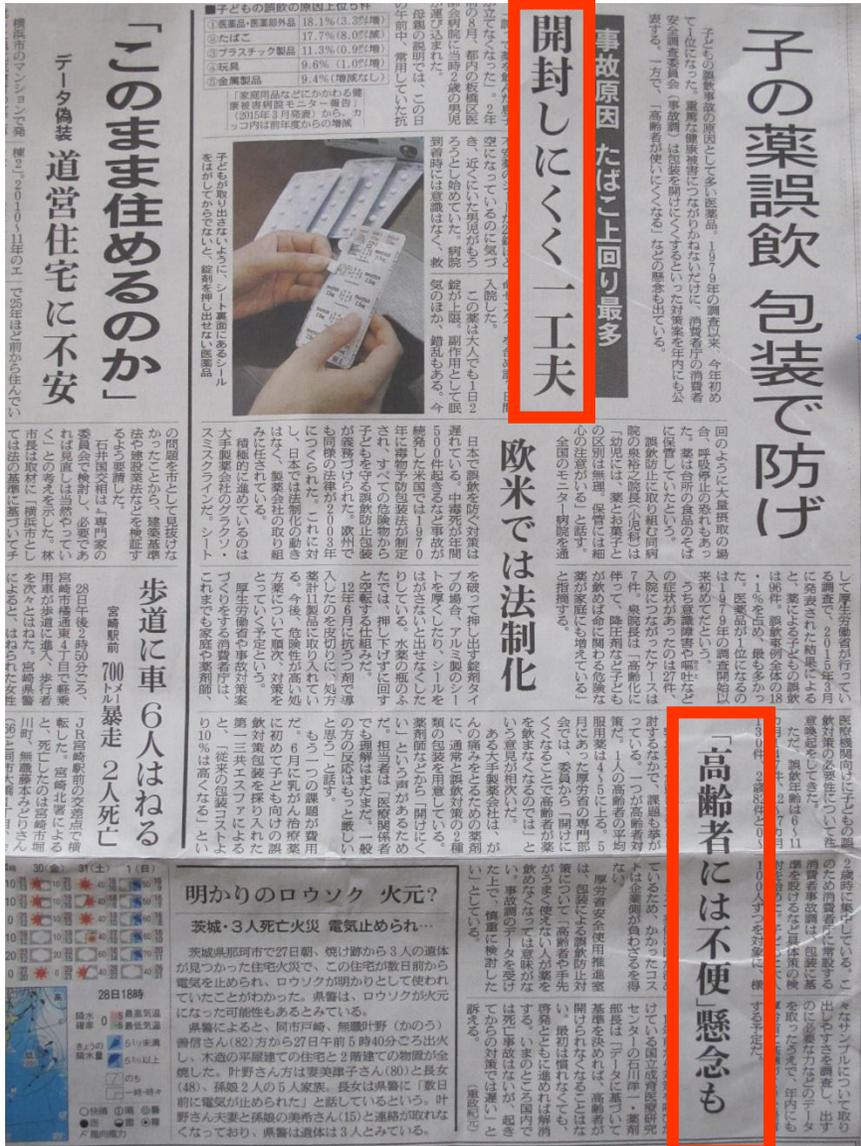
2. 主な再発事例について (1) PTP包装シートの誤飲について

- 発生した事例
- 発生した施設における再発防止策
- 関係する通知や注意喚起再発防止のための対策

10月29日朝日新聞 「子の薬誤飲 包装で防げ」

子どもの薬誤飲を防ぐため、消費者庁は「薬包装を開封しにくくする」対策案を年内に公表へ。

厚労省安全使用推進室は、「高齢者や手先が上手く使えない人が薬を飲めなくなるとは意味が無い。事故調のデータを受けた上で、慎重に検討したい」としている。



11月18日 産経新聞 「薬飲み残しなくそう」

産経新聞 平成27年(2015年)11月18日 水曜日 13版

生活

自宅に飲み忘れなどの薬が大量にたまる「残薬」。多くの種類の薬を処方されて適切に服用できない人だけでなく、自己判断で薬を中断する人もいる。医療費が無駄になるほか、適切に服用できないことで症状が悪化し、さらに薬が増えるという悪循環もあり、各地で対策が進められている。(加納裕子)

薬局などバッグ配布

奈良県大和郡山市では今年9月、薬局などで「節薬バッグ」の配布を始めた。自宅にあるすべての薬を入れてきてもらい、また使えなくなったかを判断、新たに処方された薬と同じものや、効能が重なるものがあれば、薬剤師が医師に連絡して処方量を減らす。同市薬剤師会理事の仲谷尚起さん(39)は「高齢者が種類の薬を90日分を出される」と、ほぼ確実に残ります。バッグには薬剤師会だけでなく市や医師会、歯科医師会も名を連ね、連携して取り組む。介護関係者が市内の70歳



実際の残薬。飲んだけれど、漢方薬が残るなど、特徴は人それぞれ(17日、日本薬剤師会提供)

薬 飲み残しなくそう

高齢者の処方変更も 高齢者の自宅に股ボール2箱分の残薬発見。中には30年近く前のものも。12年ごろから残薬をなくす啓発活動を通じてきた大阪市の社団法人「ライフハッピーウェル」代表の薬剤師の福井繁雄さん(41)は、そんな光景を何度も目にしている。厚生労働省によると、潜在的な残薬は年間500億円分ののぼり。薬剤師の管理や指導によって400億円分は改善できると推計されている。

薬剤師会など取り組み

の女性(自宅から約160日分の薬を発見してバッグに入れ、薬局に届けるなど効果が出ていたという。「節薬バッグ」は平成25年2月、福岡市薬剤師会が患者が残薬を持参しやすくするためのツールとして導入した。同会にもついで、残薬を活用すること前掲できた薬剤師は、処方全体の約2割にのぼり、現在も継続。全国に広がっている。



奈良県大和郡山市で活用されている節薬バッグ

年間500億円分 医療費無駄に

大阪府内の薬局ではホスタ1などで残薬整理を呼びかけているが、府薬剤師会理事の道明雅代さん(60)は「なぜ残るのかを説明することが大切」と指摘する。1日2食の高齢者に食後3回分の薬が処方されていたら、漢方薬が苦手などで全く飲んでいなかったり……。こうした場合は、医師がその事実を知って処方を変えなければならない。また、認知症の場合は1種類だけ飲み忘れたりしないように薬剤師が1回分を1つの袋にまとめることもできる。

残薬を他人に譲渡したりすると、思わぬ危険も。例えば高齢者が腰に貼るための処方された漢方薬が余り、孫が赤ちゃんなどに貼った場合、薬外液と反応して光線過敏症を発症することがある。道明さんは「本人が過去の薬を使

福井さんは「薬はただではない。無駄になった薬が国の財政を圧迫していることを一人一人が考えてほしい」と訴えている。大府内の薬局ではホスタ1などで残薬整理を呼びかけているが、府薬剤師会理事の道明雅代さん(60)は「なぜ残るのかを説明することが大切」と指摘する。1日2食の高齢者に食後3回分の薬が処方されていたら、漢方薬が苦手などで全く飲んでいなかったり……。こうした場合は、医師がその事実を知って処方を変えなければならない。また、認知症の場合は1種類だけ飲み忘れたりしないように薬剤師が1回分を1つの袋にまとめることもできる。

盛本修司社長(56)は「現在の包装では切り離される薬の種類や消費期限などの情報を記載でき、保存性も高めた新しい包装「ESOP」を開発し、29年の生産開始を目指している。



薬の種類や消費期限などの情報を記載でき、保存性も高めた包装「ESOP」

《年間500億円分 医療費無駄に》

「1錠ごとに情報記載」

製薬業界でも取り組みが始まっている。モリモト医薬では、残薬を活用しやすいよう**1錠ごとに薬の種類や消費期限などの情報を記載でき、保存性も高めた新しい包装「ESOP」**を開発し、平成29年の生産開始を目指している。

「モリモト医薬、機器開発」

ESOPで包装した錠剤などロール状に巻いて薬剤箱に入れる。これを独自開発した機械にセットし、包装材を自動裁断する。必要な数と種類のボタンを押せば自動的に処方できる。薬剤師の手作業を省けるうえ、調剤のミスもなくすることができる。

薬の処方簡単に

モリモト医薬、機器開発

錠剤包装開発のモリモト医薬(大阪府)は、調剤業務などで薬剤師が処方方を簡単にできるシステムを開発した。自動販売機のような機械のボタンを押せば、必要な数と種類の薬剤を処方できる。はさみで切り包装材を切

動的に処方できる。薬剤師の手作業を省けるうえ、調剤のミスもなくすることができる。従来の「PTP」と呼ぶ包装材はアルミ箔と樹脂で作られており、開くて折り曲げることができない。ESOPは折り曲げず、排出されるため、誤飲の事故を減らせる。保管できる。1錠ずつ包装することも可能だ。飲み込んで胃や腸を傷つ

消費者庁「厚労省に提言」各報道(2015年12月18日)

医薬品包装「子供が開けにくい構造を」 高齢者対策に課題も

産経ニュース 東京 12℃ 関西 オピニオン フォト

ホーム スポーツ エンタメ ライフ 地方 日本力 Value up

速報 事件 政治 国際 経済 コラム 特集 写真 ランキング

犯罪・疑惑 事故・災害 裁判

12月18日 18:23

文字の大きさ 小 中 大 印刷

医薬品包装「子供が開けにくい構造を」 消費者事故調が提言 高齢者対策に課題も

消費安全調査委員会(事故調)は18日、増えつつある子供の医薬品誤飲事故を防ぐため、子供が医薬品を開封しにくい構造の包装容器の導入を検討するよう求める提言をまとめ、厚生労働省に提出した。提言を受けた厚労省は「医療関係者と協議したうえで、慎重に検討したい」としている。

提言では「チャイルドレジスタンス(CR)と呼ばれる構造を備えた包装容器の導入などの検討を求めた。CR包装容器は、大人にとって包装を開封することが困難ではないものの、子供には開封しにくいよう、一般的な包装容器に比べて包装を厚くするなど強度を高めている。ま

消費安全調査委員会による開封実験で使用した包装サンプルの例



コスト増 企業二の足

毎日新聞 「モリモト 医薬」

コスト 減

で提言 薬に

と、5歳以下の子供による医薬品の誤飲事故の報告件数は2006年以降増加傾向にあり、14年は8432件に、気や嘔吐など何らかの症状があった。

チャイルドレジスタンス包装容器の例

「チャイルドレジスタンス(CR)機能」がある医薬品の包装容器は、欧米では法整備を含めて積極的に推進されている一方、日本では製薬会社の自主性に委ねられてきた。大手製薬会社のグラクソ・スミスクライン(東京都渋谷区)はこれまで、誤飲を防ぐため11種類の医薬品にCR包装を採用した。錠剤シートの裏側に、特殊なシートを貼り付け、シールを破ることで錠剤を取り出す構造になっている。

「CR機能」がある医薬品の包装容器は、欧米では法整備を含めて積極的に推進されている一方、日本では製薬会社の自主性に委ねられてきた。大手製薬会社のグラクソ・スミスクライン(東京都渋谷区)はこれまで、誤飲を防ぐため11種類の医薬品にCR包装を採用した。錠剤シートの裏側に、特殊なシートを貼り付け、シールを破ることで錠剤を取り出す構造になっている。

「CR導入には時間も資金もかかるため、企業は二の足を踏む。まだ採用予定のない製薬会社の役員は「少なくとも1割以上のコストをはがしてから押し出せるようにしたもの、また、ふたを押しながら回さないと開かないボトルなどだ。同社担当者は「欧米の基準をクリアするため、米国の検査機関で試験を繰り返して開発した」と話す。

「CR導入には時間も資金もかかるため、企業は二の足を踏む。まだ採用予定のない製薬会社の役員は「少なくとも1割以上のコストをはがしてから押し出せるようにしたもの、また、ふたを押しながら回さないと開かないボトルなどだ。同社担当者は「欧米の基準をクリアするため、米国の検査機関で試験を繰り返して開発した」と話す。

「CR導入には時間も資金もかかるため、企業は二の足を踏む。まだ採用予定のない製薬会社の役員は「少なくとも1割以上のコストをはがしてから押し出せるようにしたもの、また、ふたを押しながら回さないと開かないボトルなどだ。同社担当者は「欧米の基準をクリアするため、米国の検査機関で試験を繰り返して開発した」と話す。

包装飲む事故も 高齢者に注意

では国が薬価を決めているため、コスト増はそのまま我々が負担することになる。大企業でなければ取り組めない」と語る。

小松原明吾・早大教授(人間工学)も事故調と同様に、成長に際した子供の行動特性に扱い、誤飲防止策を講じるよう提唱する。2歳なら、親の服薬を覚えて「ここが遊ぶ」の延長でまねをする恐れがある。3歳になれば「お手伝い」を覚え、薬を飲ませてあげようとして持ち出す可能性が出てくる。年齢によってリスクの評価も違う」と指摘する。

また日本薬剤師会によると、子供に限らず、高齢者も硬い包装と薬をのみ込んでのどや食道、胃などの内臓が割つてしまう事故が起きていた。このためモリモト医薬(大阪市西淀川区)は、熱や酸に強、軟らかいフィルムを使った包装を開発した。誤飲しても安全に排出されやすく、誤飲コストも来包装より安くなるという。

産経ニュースWEB 関連ニュースで「ESOP」

- 関連ニュース
- 相次ぐ薬の包装誤飲事故 切り離しシートで損傷
 - 【日本の議論】「ジェルボール」相次ぐ乳幼児の誤飲 手軽さの裏側で死に 例も「とにかく手の届かぬところに」
 - 毛染めでアレルギー、気をつけて！ 消費者事故調が報告書
 - 高齢者の事故、転倒が8割

消費者庁「厚労省に提言」調査報告書(2015年12月18日)

子供による医薬品誤飲事故 (消費者安全調査委員会)

平成27年12月18日

消費者安全法第23条第1項の規定に基づく事故等原因調査報告書

【概要】

—子供による医薬品誤飲事故—

(消費者安全調査委員会)

厚生労働大臣への意見

(1) チャイルドレジスタンス包装容器の導入

- ① 子供は開封しにくく、中高年には使用困難ではない包装容器の実現可能性を示した本調査結果も踏まえ、チャイルドレジスタンス包装容器の標準化を始めとする導入策を検討すること。

7. 意見

子供による医薬品誤飲を防ぐためには、子供が開封しにくい包装容器の導入と、消費
周知を通じて家庭での適切な管理を促すことがより効果的であると考えられる。こ
び消費者庁は以下の取組を行うべきである。

厚生労働大臣への意見

(1) チャイルドレジスタンス包装容器の導入

厚生労働省は、子供による医薬品の誤飲防止のため、包装容器による対策について次の取組を行うこと。

- ① 子供は開封しにくく、中高年には使用困難ではない包装容器の実現可能性を示した本調査結果も踏まえ、チャイルドレジスタンス包装容器の標準化を始めとする導入策を検討すること。
- ② チャイルドレジスタンス包装容器の導入に際しては、調査委員会の調査結果や海外での事例を参考に、対象とする医薬品の範囲、チャイルドレジスタンス包装容器に対する消費者の理解醸成や補助具の利用促進といった補完策も含め、具体的な方策について、医療関係者、服用者、子供や高齢者の安全、製品安全などの専門的な知見を持った者をそれぞれ加えて十分に議論し進めていくこと。

塩崎厚労相「閣議後記者会見」(2015年12月22日)

消費者庁事故調の提言に対して 「包装容器面を含めた誤飲事故防止対策を検討」

ひと、暮らし、みらいのために



テーマ別に探す

報道・広報

政策について

[ホーム](#) > [報道・広報](#) > [大臣記者会見](#) > 塩崎大臣閣議後記者会見概要

塩崎大臣閣議後記者会見概要



(H27.12.22(火)10:30 ~ 10:43 省内会見室)

(記者)

薬の誤飲の問題についておうかがいします。消費者事故調(消費者安全調査委員会)が先日厚労省に対して、子どもが誤って薬を飲む場合の事故について防ぐように、いろいろ対策を提示されていますが、これについて大臣の受け止めと、厚労省としてどのように対応されるか、お願いします。

(大臣)

子どもさんが間違っ飲んではいけな薬を飲んでしまうということは大変問題であって、現在厚生労働科学研究班において包装容器面を含めた誤飲事故防止対策を検討しております。包装容器を開けにくくすることも考えてやっているわけでありますが、これが今度は逆に高齢者などにどう影響するのかということも留意しないと指摘をされておりまして、今後対策をよく考えた上で示していきたいと思っております。なお、子どもさんによる医薬品の誤飲を防止するためには、まず御家庭で医薬品を適切に管理すること、子どもの手に届かないところで管理することが極めて大事であって、厚生労働省としては地方公共団体、医療関係者などを通じて、周知や注意喚起をしていかなければならないと考えておりますので、我々としても努力をさらにしていかなければならないと思っております。

これまでの注意喚起のみの
対応から大きく前進！

1月15日 シルバー日報 「安全服用協会が設立」

シルバー新報

2016年(平成28年)1月15日(金曜日)



服薬事故防止に向け 安全服用協会が設立

高齢者や子どもに多い服薬にまつわる事故や飲み残しなどの課題に取り組むことを目的に、このほど日本安全服用協会(北村滋郎会長)が設立。昨年12月21日に大阪市で設立記念シンポジウムを開催した。製薬メーカーの担当者や薬剤師な



ど770人が参加した。協会では今後、服薬の安全性に配慮した錠剤包装などの開発を業界と呼びかけ、製品の認定制度やアドバイザ制度などの創設に取り組む。

北村会長は協会設立の経緯について、高齢者や子どもを中心に薬を包材ごと飲み込んでしまふなどの事故が年間5千件以上起きており、中には死亡に至る重大な事故も発生していることを指摘した。さらに、処方された薬を飲み残す「残薬」によって医療費が増大している課題もあるとした。「薬の服用をキーワードにインベションを起こしたい」(北村会長)。

まずは、誤って飲んでしまった安全な薬の包材などの新技術の開発・普及を薬剤業界に働きかけ、認定制度を実施する。また、介

護の... 対象... アドバイザ... 資格制度... なければ2月... から始める予定だ。

さらに、シンポジウムでは子どもや高齢者が錠剤を包材ごと飲み込んでしまい、食道などを傷つける誤飲事故を防ぐ工夫がされた包材もすでに開発されている現状が紹介された。モリモト医薬の「ESOP」は、錠剤を包むフィルム。指先に力を入れずに錠剤を枝豆のように押し出すことができたため、高齢者でも

「ESOP」が紹介

さらに、シンポジウムでは子供や高齢者が錠剤を包装ごと飲み込んでしまい、食道などを傷付ける誤飲事故を防ぐ工夫された包材もすでに開発されている現状が紹介された。

モリモト医薬の「ESOP」は、錠剤を包むフィルム。指先に力を入れずに錠剤を枝豆のように押し出すことができるため、高齢者でも取り出しやすい。また、万一包装ごと飲みこんでしまっても体内で刺さったりせず、溶解せずに対外に排出されるという。

